



# ひがし野

教育目標  
 真理(まこと)を求める生徒  
 情操(こころ)を深める生徒  
 身体(からだ)を鍛える生徒

令和2年

12月

高め合い 磨き合い 感動し合い  
 「愛」いっぱい真岡東中

## 疾風怒濤の2020年を終えるにあたり

4月の入学式、始業式を終えた途端の臨時休校。5月に学校が再開しても、どこまでの活動が可能なのかを模索する日々が続きました。運動会、修学旅行、ひがし野祭、駅伝フェスティバルの開催についても、開催の可否を含め、教職員で協議し、時にはPTA役員の方々のご意見もいただきながら何とか全ての行事を実施することができました。第3波とも言える感染拡大をしている時期ではありますが、大過なく2020年を終えることができることに安堵を感じております。

保護者の皆様におかれましても、休校中のお子様への対応も大変でしたでしょうし、学校が再開しても感染への不安、学校行事等で活躍する生徒の様子を直接見ることのできない寂しさなどを感じられていたことと思います。

「夜明けの来ない夜はない」そう信じて、我慢の連続であった2020年のことを笑って回顧できる新しい年になることを願っております。

真岡東中学校331名の生徒およびそのご家族が、良いお年をお迎えできますよう祈っております。

## 関東中学校駅伝競走大会 初出場で準優勝

12月5日(土)に関東中学校駅伝大会が行われ、女子チームが初出場で準優勝という快挙を成し遂げました。関東各都県の代表として出場した学校ばかりで、ウォーミングアップ一つを見ても、どの学校の選手からも自覚と決意がみなぎっていました。そんな中で、真岡東中の生徒は臆することなく、「平常心」を保ち、持ち前の実力とこれまでの厳しい練習の成果を十分に発揮しました。

### 小林厚也 監督の言葉

郡大会、県大会初優勝で、勢いに乗って迎えた関東中学校駅伝。今まではトラックレースだったので、襷をつなぐ駅伝は今年初に加えて、コロナ感染症対策で試走ができず、コース幅や高低差などコースの不安がある中でのレースだったので、一種の緊張感も漂っていた。そんな中で、1区のスタート。1区が関東の強豪と堂々と渡り合い、区間6位の好位置で2区へ。各校エースが集う最長区間の1区さえ流れれば、2区、3区は県駅伝で連続区間賞の区間なので、好位置でレースは流れると踏んでいた。すると、2区で5人抜きでわずかに2位をかわしトップへ。さらに3区も粘り、トップとほとんど差もない2位で4区へ突入した。その4区も設定タイムを6秒上回る粘りの走りで、アンカーへ襷リレー。理想に近い展開だった。そのアンカーは、最初の1kmを3'03"で入る積極性で、準エースのそろう5区で5位から2位へと順位を押し上げ、区間賞を獲得した上に、表彰台を確定させた。県駅伝に続いて見事と言える快走だった。コロナの関係で、「一切応援はなし」というルールだったが、5区の選手が最後のカーブを曲がり2位で見えたときは、ゴール付近で見守っていた東中の走り終わった選手からの歓声が自然と聞こえた。感無量だった。自分も選手たちと同じ気持ちだった。一体感とは、こういうものなのだろうと肌で感じた瞬間だった。アンカーがゴールし、付き添いのメンバーを加え、歓喜の輪が広がった。

熱中症に注意しながらの猛暑の8月に始まり、ペース走で吐く息が真っ白になる12月初旬までの4ヶ月間の練習が頭の中に蘇ってきた。思い返すと、たくさんの応援があった。県を制覇してからは、その期待も十分に感じてきた。東中の教職員や生徒たちの応援、保護者のサポート、地域の方々の声援など、とても力強く感じた。これで2年連続の県大会アベック出場、そして女子の関東2位の成績は、来年以後のチームへの大きなモチベーションとなり、さらなる高見を目指して頑張ってくれるだろう。関東駅伝準優勝、おめでとう。そして、更なる大きな感動をありがとう。

### 鈴木咲良さん(第2区、キャプテン)

「自分の一秒はチームの一秒」という言葉を胸に一人ひとりが皆のために走ったからこそ、この準優勝という成績を残すことができました。夏からの練習で辛いことがたくさんあって、やめたいと思うことも多々ありました。しかし、今となってはやってよかったと思える、そんな4ヶ月間でした。今までお世話になった方々、駅伝部のメンバーに「ありがとう」と伝えたいです。



### 高波真妃さん(第4区)

私たちは、約4か月間、特設駅伝部として毎日練習に取り組みました。当初、体力づくりのつもりで参加した私は、思っていた以上に走れない自分に気付き、いつの間にか体力づくりという目標ではなく、もっと強くなってメンバーを目指すことに決めました。自分に弱い私は、何度も諦めかけました。そこでサポートしてくれた校長先生を始め、諸先生方、みんなに支えられてここまで来ることができました。県大会で失敗した時、校をとがめることなく、受け入れてくれたメンバーがいてくれたから、関東大会で自己ベストを出すことができ、チームに貢献することができました。この駅伝を通し、最後まで諦めずに努力すること、チームの絆の大切さに気付くことができました。私にとってとても良い思い出になりました。ありがとうございました。

※紙面の都合上、3年生のみのコメントを掲載いたします。

1区：黒子蓮花さん(2年)、3区：加藤幸さん(1年)、5区：松本瑠璃さん(1年)

リザーブ：大木こまちさん(2年)・三上鼓々さん(2年)・油原莉桜さん(1年)の健闘を称えます。